

「むろん、住人たちの頭や肩の上には猫が一匹ずつ載っていて、  
あたかも彼らの分身のように辺りを睥睨している」――

「わたし」と「猿の顔をした子」の「猫島」の旅を、  
日本語とスワヒリ語のポリフォニーが奏でる第四詩集

## 飯沢耕太郎詩集『猫島からの帰還』挿画：高橋克之

1954年宮城県生まれの写真評論家／きのこ文学研究家／詩人である飯沢耕太郎の第四詩集『猫島からの帰還』をふげん社から刊行いたします。

1996年『写真美術館へようこそ』でサントリー学芸賞を受賞した同年、第一詩集『茸日記』を刊行。コロナ禍以降に詩人としての活動が活発化し、2022年に第二詩集『完璧な小さな恋人』（ふげん社）で第28回中原中也賞最終選考作に、2024年には第三詩集『トリロジー 冬／夏／春』で第32回萩原朔太郎賞最終候補作に選出されています。

『猫島からの帰還』は、著者が20代後半に、東アフリカに滞在した後に執筆された1982年の原稿をもとに大幅に加筆して構成されました。ケニアの東海岸、ソマリアとの国境に近いラム島がモデルとなっている、猫たちが支配する「猫島」を、「わたし」と「猿の顔をした子」が旅をする、16篇の連作詩です。

アフリカの大地が匂い立つような、スワヒリ語と日本語の豊かなポリフォニーによって象づかれた「猫島」の世界を、画家・高橋克之の挿絵が彩ります。宮添浩司による瀟洒な造本にもご注目ください。



「――さあ どこにでも行くがいい  
でももう二度と戻ってくるなよ

小さな老人たちのなかでいちばん小さなひとりが  
そう言いながら背中を蹴とばして  
わたしたちを 石と骨の土地へと送り出した。」  
（「対岸I」より）



「俺は俺ら俺らは俺壹匹にして無数なる∞なる個  
俺（俺ら）の声をあわせ👏みやうみやうと唱和せり  
みやうみやうと湧きおこる唄  
kisiwa cha pakaを包みて  
雲の柱となり  
雨雨雨雨となり👏猫島に降りそそぐ  
muvua inanyesha sana」 （「猫が…」より）



### 飯沢耕太郎『猫島からの帰還』 挿画：高橋克之

出版社 ふげん社  
発行日 2025年1月23日  
デザイン 宮添浩司  
仕様 スイス装・上製本／110×250mm  
頁数 115頁  
ISBN 978-4-908955-38-9  
価格 ¥2,970(税込)

#### 【目次】

麻袋	赤い湖
対岸I	大きな顔
猫島	対岸II
二つ目の頭	世界
声たち	猫が…
樹木	身ごもり
草原の椅子づくり	『猫島からの帰還』が
唄	できるまで
月の光	
ナイロビ	

【プロフィール】 飯沢耕太郎 Kotaro Iizawa  
写真評論家、きのこ文学研究家、詩人。1954年、宮城県生まれ。1977年、日本大学芸術学部写真学科卒業。1984年、筑波大学大学院芸術学研究所博士課程修了。『写真美術館へようこそ』（講談社現代新書、1996年、サントリー学芸賞受賞）ほか著書多数。近刊に、カラーとドローイング+旅日記『African Sketchbook』（PURPLE、2024年）がある。

▶ご注文はツバメ出版流通まで FAX：03-3721-1922 TEL：03-6715-6121  
mail：info@tsubamebook.com http://tsubamebook.com

貴店名（番線印）	新刊 ふげん社	https://fugensha.jp https://www.shashin.tokyo/ 返品条件付注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通：川人
ご注文数	飯沢耕太郎『猫島からの帰還』	
ISBN 978-4-908955-38-9 C0092	定価：2,970円（本体2,700円+税10%）	
ご担当： 様		